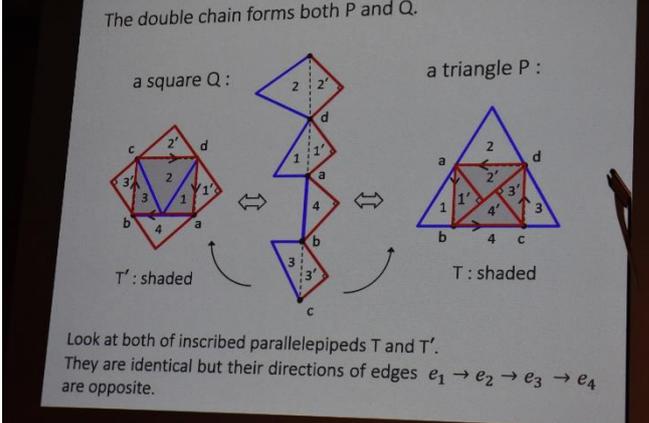
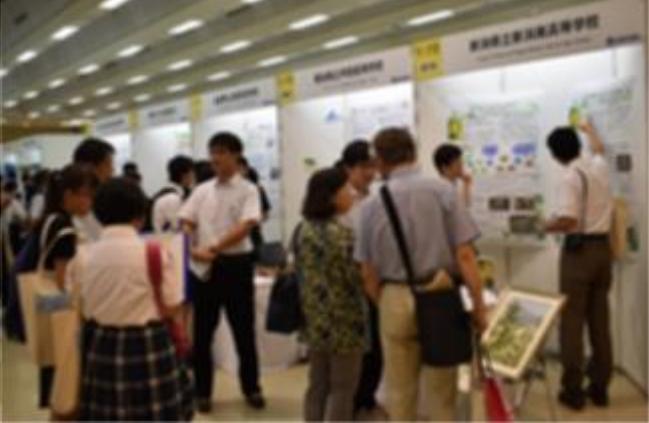




南高SSHだより

第5号
H30.10.5
新潟南高等学校
SSH総務部発行

平成30年度SSH生徒研究発表会 (in 神戸)



文部科学省および国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 主催による平成30年度SSH生徒研究発表会が、神戸国際展示場を会場に、平成30年8月8日(水)、9日(木)に行われました。発表会には全国 208校の SSH 指定校等から約 4,000 人の高校生が集まり、日頃の研究成果のポスター発表や口頭発表が行われました。海外から 25 校の招待校の参加がありました。本校からは3学年の生徒3名が参加し、課題研究のポスター発表を行いました。

初日は、開会式、講演、ポスター発表の審査が行われました。講演は東京理科大学の特任副学長の秋山仁先生で、「封筒定理」「多面体展開図の変身定理」など大変興味深い内容でした。生徒は、ポスター発表の審査開始前は少し緊張している様子でしたが、いざ審査が始まると3名とも堂々と発表していました。

会場には大勢の高校生や一般の方が入場し、どの学校も、発表者は皆一生懸命自分たちの研究の説明を行っていました。また、発表者は発表の合間に他校のポスター発表を聞くことができました。生徒は、他校の研究発表を聞き他校の生徒と交流することで、大いに刺激を受けたようでした。2日目は、審査で選ばれた代表校6校による口頭発表が行われました。代表校による発表はどれも大変すばらしい発表であり、生徒は熱心に発表を聞いていました。代表校になるような課題研究は、数年間継続研究をされている学校が多く、今後の参考になりました。

参加した生徒の感想

・私は、この発表会で、いくつかの新しい発見をしました。秋山先生の講義では、等積多角形の分割合同の定理を例に、**身の回りにある研究テーマに目を向けることが大切である**ことを教えていただきました。これからは身の回りの課題にしっかりと意識を向けて、課題解決能力を高めていきたいと思います。

代表校の口頭発表ですごいと思ったのは、**鹿児島県の国分高等学校の「エンマコガネの研究」**です。**仮説と実験方法がしっかりと関連していたこと**、内容が分かりやすく無知な私にも十分に理解できた点に感動しました。他の代表校も、自分の研究を堂々と発表し、質問にも素早く的確に応答していたのでとても参考になりました。

私たちのポスター発表は自分たちなりににはよくできた方なのではないかと思いました。しかし研究背景をさらに明確にすることや実験方法の改善などまだまだ準備することがあったとも思いました。この経験をこれからの研究や発表に活かしていきたいと思いました。(3-9 村田 優人)

・私は生徒研究発表会に参加して、**研究活動における意見交換の大切さ**を感じました。

会場には生徒だけでなく、引率の先生や研究を仕事としている人が多くいました。その中には私たちの研究分野をよく知っている人もいて、その方々の経験を踏まえたアドバイスをいただけたのは大きな成果でした。

また、私たちと同じような研究をしている学校があり、私たちよりももっと簡単な手法で実験を行っていて大変参考になりました。このように意見交換で得るものは大きく、今後も大切にしたいと思いました。(3-9 黒田 凌佑)

・私は今回、**自らの考えを他者に伝えることへの自信**を持つことができました。発表会では入賞することはかなわなかったし、研究内容や結果が私たちの班より数段上を行く学校も多くあったことは認めざるを得ない事実です。

それでも聞きに来てくださった方々に私たちの研究を理解し、納得していただけるような発表ができたという点では、他校に引けを取らないものであり、私にとって大きな成果だったと思います。

今回の経験は課題研究に関してだけでなく、今後の大学生活にも大いに通ずるのもだと思えます。今回学んだことを活かして、さらに良い研究や発表ができるよう今後もがんばってまいります。(3-9 岩間 永樹)

